

現であり、芸術美の極致」と絶賛した同寺の半跏思惟弥勒菩薩像（赤松）も「渡来人」の手になる傑作であることは想像にかたくないとしている。」と述べています。

通貨と両替

通貨の単位はウォン。ウォンの表示は₩
約 200 ₩は 100 円の概算となります。公定為替レートは毎日基準率の告示があるがごく小幅。紙幣は 500 ₩, 1000 ₩, 5000 ₩, 1 万₩の 5 種類。硬貨は 100 ₩, 50 ₩, 10 ₩, 5 ₩, 1 ₩の 5 種類があります。

訪韓した期間の公定レートとヤミレートは下記の表のとおりです。

(100 円を基準)

月日	区分	公定レート	ヤミレート
1月2日		ソウル 201 ₩	ソウル 238 ₩
3日		201	ソウル 235 ₩
4日	両替は初日のみ	201	ソウル 230 ₩
5日		201	ソウル 225 ₩
6日		201	慶洲 220 ₩
7日		釜山 215 ₩	

ちなみに日本人観光客の出入国はヤミレートに、影響を与えています。それはクリスマスから大みそかにかけて円のヤミ値が非常に高くなり 100 円が 250 ₩で取引されたいのですが、1月も7日頃となると正月にかなりの日本人が入国して円がダブついたためにヤミ値が下がったことなどから知ることが出来ます。

このヤミ屋はどこにでもいて、ソウル金浦空港につくやいなや、「社長、両替しましょうか、公定レートより高く替えてあげましょう。」と言い寄って来たが丁寧にお引きとりをねがいました。その時は1万円を2万24₩でさそいをかけてきました。

このあとすぐ空港内の韓国銀行で公定レート通りの1万円を2万₩強で両替したのですが、(どうなっているんじゃこれ!!)

この時、外貨交換証明書を発行してくれませんでした。釜山金海空港出国の時に、外貨交換証明書のない者については、円では1人5万円(103千₩)までドルは300 \$までしか両替出来ないとのことでした(ヤミであれば証明はないのがあたりまえ)泣いているオッサンがたくさんいらっしゃいました。

これらのこととともに考えられるのは、ヤミのレートも韓国の外貨獲得の1つの方法でもあるということです。

そして帰国後の1月12日、韓国政府は19.83%もの大幅ウォン切り下げを発表しました。

これまで通貨切り下げをすれば輸入原材料の価格が上昇するなどマイナスの面が大きいのとして行われませんでした。人件費・原材料の高騰・先進各国の景気低迷、台湾など他の中進国との競争激化などから、輸出競争力が低下し、今年の輸出目標(170億ドル)達成がかなり難しくなってきたため、欧米輸出等を意識したもので、ウォン切り下げは74年12月(21.76%)以来6年ぶりに行いました。

1月6日 雪 -6度慶州(国立博物館・仏国寺)

1月7日 晴 -3度釜山金海空港

最後に

70年代の終末と朴正熙体制への訣別を同時に迎えて、80年代初頭より大きな転機に直面している韓国を、短い滞在でしたが、この眼で見たことを書き綴ってみました。

短期間の体験ではカルチャーショックを感じることもなく(本人はそう信じているけれども?)又、それが行動を制限しなかったとはいうものの咀嚼しながら自己の経験として昇華して思考にまで高めるにはまだ時間がかかりそうです。

＜シリーズ・その3＞

大学・研究所めぐり

用度係 大谷 浩一

1. 韓国の教育

大韓民国はアジアに於て、日本と比肩する水準の高い教育が普及しています。とりわけ第3共和国(1963年)成立いらい、全国の文盲率はゼロに近く、山間僻地でも国民学校(小学校)の分校があって義務教育制度は忠実にまもられています。まだ義務教育が小学校の段階までですが、遠からず中学校までに拡大されるでしょう。全国津々浦々に隅なく行き届いているセマウル運動(新しい農村づくり)も国民基礎教育の普及に大きく寄与しています。

2. ソウル大学校

韓国における高等教育の中心である。ソウル大学校(大学校は総合大学、大学は単科大学を意味しているが、日本では学部に該当する)は、ソウル特別市郊外の冠岳山麓にあります。

1946年解放直後の米軍統治下において国立大学として発足して以来、同大学はタコ足状に存在するいくつかの単科大学の集合体でしたが、それらを総合化すべく抜本的改革に着手したのは1968年のことです。

同年大学当局は、「ソウル大学校総合化10ヶ年計画」を発足させ、政府も同年7月「ソウル大学校施設拡充特別会計法」(法律2034号)を公布し、計画の財政的裏付けを行いました。

さらに1970年には国務総理の下に「ソウル大学校総合計画推進委員会」が発足し、政府も本腰を入れてソウル大学校の改革に取り組むこととなりました。

韓国の教育制度は、教育法の制定が1949年、現行の学校制度は1951年に制定されて、就学年限は、6・3・3・4年と日本と同じで、国民学校6年、中学校3年、高校3年、大学校4年となっています。

しかし、高校の場合は学校格差をなくすための抽選配定制度を取っています。即ち、中学卒業予定者に対し連合考査を実施し、それに受かった者を集めて抽選により進学する高校を配定する方式をソウル・釜山などの大都市で施行しています。

10ヶ年計画の中心は何と云っても新キャンパスへの統合移転で、その基本方針としては、

- (1) 医大・農大を除く全キャンパスの移転統合。
- (2) 新キャンパスの建設期間は1968年から1977年までの10ヶ年とする。
- (3) 財源はソウル大学校所有国有財産の売却・政府の援助・外国の援助とする。

以上の3点を確認し、1970年5月16日、ソウル市から南へ15キロメートルほどはなれた冠岳山麓が、新キャンパス地として決定され、1971年4月2日に起工式が挙行されました。

なお、1979年末現在、工学部の移転はまだ完了していませんでした。(現在、収集した資料等は未整理なので、統計資料及び教官・学生数は省きました。)



ソウル大学校



ソウル大学校学生寮

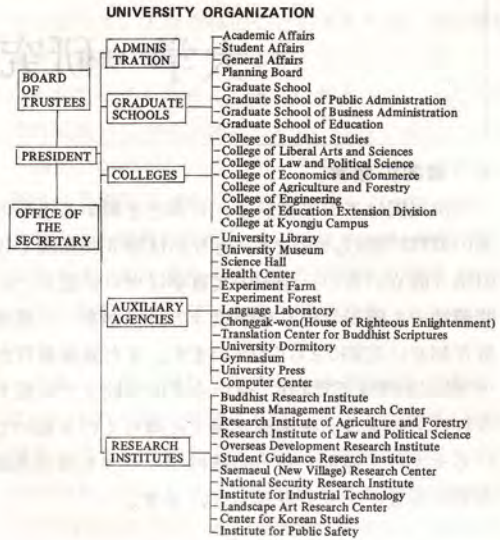
3. 東国大学校

東国大学校は私立（仏教系）の総合大学で、1906年5月8日に開学して以来74年の歴史を有する私立の名門です。

キャンパスはソウルの中心地にあり、慶州市にも1学部があります。



東国大学校
(私立の仏教系大学)



— 就職委員会だより —

総合科学部就職委員会

三度目の卒業生を送り出す日を前に、昭和54年度の就職戦線を回顧し、若干のコメントを添えたい。

第一回、第二回の卒業生の就職は、学生はもとより、教職員も全く暗中模索で、ガムシヤラな努力であったが、三度目を迎えた本年度は、多少おちつきを示してきた。

それは、第一回、第二回の卒業生によって、総合科学部卒業生の進む道が、踏み分けられたことによる。未だ決して大きな道ではなく、方向も限られるが、本年度の卒業生に関しては容易に各々の進路を見つけることができた。この面に関して、学部の一応の基礎づくりができたと言えよう。

本年度卒業予定者の選んだ道筋は、大別して、大学院進学のほか、一般企業、教員を含む公務員、また、地域的には、一般企業の場合、広島地区と中央への進出が、公務員の場合出身地帰巣が目立った。

さて、一般企業については、別表に示すごとく、各々の適性を生かして、比較的広い中から企業を選んだが、女子の道はやはり厳しかった。こうした中で、特徴的なことの一つは、広島地区の求人が増加

したことで、自動車、電力などへの道が開かれた。

教育職、行政職などの公務員は、大幅に増加した。行政職では、都府県、市町レベルはもとより、国家公務員にはじめて食い込むことができた。この中でも政令指定都市をめざす広島市への中級職に女子が主体に進出したことが目立っている。

教育職も約2倍に増加し、広島、大阪をはじめ、関東から九州までの広い範囲におよんでいる。

一方、コース別に見る時、各コースで卒業生の進む道がほぼ定着し、特色が見られるようになった。すなわち、大学院進学を除き、地域文化コースは、教育職を柱に一般企業・行政職公務員。社会文化コースは、一般企業・行政職公務員。情報行動科学コースは、一般企業に集中する傾向を示し、環境科学コースは、一般企業・行政職公務員などが見られるが、前三者ほど明瞭に特色を示さない。

こうした成果は、当該学生はもとより、教職員の格別の努力によるものである。

末筆ながらその労を多としたい。

卒業生進路内訳（卒業時）

卒業年度 コース 区分	52 年 度					53 年 度					54 年 度				
	地域 文化	社会 文化	情報 行動	環境 科学	計	地域 文化	社会 文化	情報 行動	環境 科学	計	地域 文化	社会 文化	情報 行動	環境 科学	計
卒業 者	21	22	21	14	78	39	22	16	24	101	44	28	28	23	123
進 学	7	3	7	3	20	3	1	5	13	22	4	0	7	9	20
公 務 員	2	4	2	1	9	2	8	5	2	17	8	11	3	5	27
教 員	1	2	2	4	9	8	1	0	0	9	14	4	0	1	19
企 業 自 営	11	11	6	4	32	17	12	3	6	38	9	12	13	5	39
無 職	0	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	0	2	3	0	5	9	0	3	3	15	9	1	4	3	17

54年度は2月末現在（無職には研究生・聴講生を含む）

卒業時の就職企業名（民間）

卒業年度 コース	地域文化	社会文化	情報行動科学	環境科学
52	ぎょうせい製薬店 中外製工務店 竹中工務店 シヤー 東京芝浦電気 東不 ピア 大垣共立銀行 毎日放送 西武百貨店 ランゲージサービス	大塚グループ いづみ商事 尾崎商業銀行 群馬銀行 三和実業 丸マダ ア 川崎汽船 国際協力事業団	日本ユニバック シヤープ 日本電気 いづみ 福武書店 日立青梅電子工業所	熊本日新 山崎製パン 鹿島建設 日本特殊塗料
53	親和銀行 広島相互銀行 愛媛信用金庫 大塚グループ 日本航空 中国放送 Y M C A タカキベーカー メガネの田中 日本 Hammond 第1学習社 山陽コカ・コーラ 和歌山農協 大阪有線 アンピック外語学院 グロリア・アメリカナ	内田洋行 片岡物産 東住金物産 三菱商事 三十和 国際コミュニケーション シヤープ 山陽コカ・コーラ 日本電装 大塚グループ 日本国有鉄道	東京芝浦電気 不二家 リコー教育機器	神戸製鋼 ミサワホーム 日特建設 日本IBM 宅地開発公団 純正食品コダマ
54	三井不動産販売 西武百貨店 大学出版図書販売 青木建設 全日本空輸 浜田鉄工所 武富士 マツダオート鹿児島	日本勧業角丸証券 イトキ 松下電器産業 松下電器貿易 電通 東洋工業 富士銀行 紀伊国屋書店 住商リース アマダ 日産プリンス自販(山口) 肥後銀行	富士コンピュータサービス 十和力 中国電機 日本電気 シヤープ 富士通 社会行動研究所 不二家 中国新聞社 山根木材 新広島テレビ	ミサワホーム 日特建設 大塚グループ A. H. S ジャパン 日本データ・ゼネラル

学 部 の 記 録

(人 事 異 動)

<採 用>

2.1 木下雅恵 (自然環境研究 事務補佐員)

<辞 職>

12.31 野川啓子 (外国語)

3.31 唐須教光 (英語 助教授)

井上千吉 (情報行動基礎研究 助教授)

海 外 渡 航 者

(出 張 お よ び 研 修)

樹下行三 (情報行動基礎研究 教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目 的 第10回超高信頼化システム技術国際シンポジウムの第1回プログラム委員会出席

期 間 55.2.9～55.2.16

根平邦人 (自然環境研究 助教授)

渡航先 タイ

目 的 昭和54年度東南アジア諸国学術交流事業による“マングローブに関する現地予備調査”

期 間 55.2.17～55.2.25

嶋屋節子 (ドイツ語 助教授)

渡航先 ドイツ連邦共和国

目 的 ドイツ語教授法の研究

期 間 55.4.4～55.10.11

小林文男 (アジア研究 助教授)

渡航先 中華人民共和国

目 的 中国歴史学界の動向調査及び学術教育交流

期 間 55.3.13～55.3.23

小川 侃 (ヨーロッパ研究 助教授)

渡航先 ドイツ連邦共和国・フランス・オーストリア・ベルギー・スイス

目 的 現象学研究の為のドイツ学会出席および各国現象学研究現状調査

期 間 55.3.16～55.4.20

樹下行三 (情報行動基礎研究 教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目 的 計算機応用技術の現状調査

期 間 55.3.13～55.3.22

長谷川正之 (基礎科学研究 助教授)

渡航先 連合王国・フランス・スイス

目 的 金属、合金の熱力学的性質に関する理論的研究

期 間 55.3.29～55.10.11

嶋陸奥彦 (アジア研究 講師)

渡航先 大韓民国

目 的 韓国農村研究の現状視察及び資料収集

期 間 55.3.26～55.4.6